

職業実践専門課程等の基本情報について

| | | | | | | | |
|--|--|------------------|-----------------------------|--|------------------|--------------------|----------------|
| 学校名 | | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | |
| 横浜リハビリテーション専門学校 | | 平成10年3月1日 | 橋本 卓雄 | 〒 244-0801 (住所) 横浜市戸塚区品濃町550-1 (電話) 045-826-7550 | | | |
| 設置者名 | | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | |
| 学校法人岩崎学園 | | 昭和26年3月8日 | 岩崎 文裕 | 〒 220-0004 (住所) 横浜市西区北幸1-2-7 (電話) 045-311-5561 | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士認定年度 | 高度専門士認定年度 | 職業実践専門課程認定年度 | | |
| 医療 | 医療専門課程 | 作業療法学科 | - | 平成17(2005)年度 | 平成26(2014)年度 | | |
| 学科の目的 | ケガや病気による障害や身体機能の低下、高齢者の身体機能低下などに対し、全身状態を的確にとらえるための臨床的推論を基にした、評価技術および治療技術を習得させる。 | | | | | | |
| 4 | 昼間 | ※単位時間、単位いずれかに記入 | 3,765 単位時間 — 単位 | 2,130 単位時間 — 単位 | 300 単位時間 — 単位 | 1,125 単位時間 — 単位 | 0 単位時間 — 単位 |
| 生徒総定員 | 生徒実員(A) | 留学生数(生徒実員の内数)(B) | 留学生割合(B/A) | 中退率 | | | |
| 160 人 | 164 人 | 0 人 | 0 % | 0 % | | | |
| 就職等の状況 | ■卒業者数(C) | | 34 人 | | | | |
| | ■就職希望者数(D) | | 34 人 | | | | |
| | ■就職者数(E) | | 34 人 | | | | |
| | ■地元就職者数(F) | | 33 人 | | | | |
| | ■就職率(E/D) | | 100 % | | | | |
| | ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) | | 97 % | | | | |
| | ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) | | 100 % | | | | |
| | ■進学者数 | | 0 人 | | | | |
| | ■その他 | | | | | | |
| | 特になし | | (令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報) | | | | |
| ■主な就職先、業界等 | | (令和5年度卒業生) | | | | | |
| 医療法人健仁会 健仁会整形外科内科、社会福祉法人済生会 横浜市東部病院、医療法人財団明理会 東戸塚記念病院、社会福祉法人聖テレジア会 聖ヨゼフ病院、医療法人 篠原湘南クリニック クローバーホスピタル、NTT東日本伊豆病院、医療法人三星会 かわさき記念病院、医療法人 徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院、医療法人社団明芳会 イムス横浜狩場脳神経外科病院その他 | | | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構 受審年月: 令和4年3月 評価結果を掲載したホームページURL: https://jcore.or.jp/ | | | | | | |
| 当該学科のホームページURL | https://ycr.iwasaki.ac.jp/ | | | | | | |
| 企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入) | (A: 単位時間による算定) | | | | | | |
| | 総授業時数 | | 3,765 単位時間 | | | | |
| うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 | | 1,125 単位時間 | | | | | |
| うち企業等と連携した演習の授業時数 | | 60 単位時間 | | | | | |
| うち必修授業時数 | | 1,185 単位時間 | | | | | |
| うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 | | 1,125 単位時間 | | | | | |
| うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 | | 60 単位時間 | | | | | |
| (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) | | 0 単位時間 | | | | | |
| (B: 単位数による算定) | | | | | | | |
| 総単位数 | | — 単位 | | | | | |
| うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数 | | — 単位 | | | | | |
| うち企業等と連携した演習の単位数 | | — 単位 | | | | | |
| うち必修単位数 | | — 単位 | | | | | |
| うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数 | | — 単位 | | | | | |
| うち企業等と連携した必修の演習の単位数 | | — 単位 | | | | | |
| (うち企業等と連携したインターンシップの単位数) | | — 単位 | | | | | |
| 教員の属性(専任教員について記入) | ① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号) | | 2 人 | | | | |
| | ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) | | 2 人 | | | | |
| | ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) | | 0 人 | | | | |
| | ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) | | 3 人 | | | | |
| | ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) | | 0 人 | | | | |
| | 計 | | 7 人 | | | | |
| 上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数 | | 7 人 | | | | | |

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、医療・福祉・介護・教育施設、関連業界等との連携を通して必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成を検討する機関とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教務部は、教育課程編成委員会委員として適任と思われる者を、次の各号に掲げる者の中から推薦し、学校長が委嘱する。

- 一 関係職能団体である(公社)神奈川県理学療法士会および(一社)神奈川県作業療法士会の役員
- 二 理学療法および作業療法に関する学会や学術機関等の有識者
- 三 本校の臨床実習施設の役職者
- 四 その他の理学療法士および作業療法士が関わる施設の役職者

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|------------------------------|------------------------|----|
| 鈴川 仁人 | 公益社団法人 神奈川県理学療法士会 理事 | 令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年) | ① |
| 錠内 広之 | 一般社団法人 神奈川県作業療法士会 監事 | 令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年) | ① |
| 野々垣 睦美 | クラブハウスすてっぷなな 統括所長 | 令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年) | ③ |
| 斉川 大介 | 藤沢湘南台病院 リハビリテーション科 科長 | 令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年) | ③ |
| 橋本 卓雄 | 横浜リハビリテーション専門学校 校長 | 令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年) | — |
| 渡邊 洋治 | 横浜リハビリテーション専門学校 担当グループグループ長 | 令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年) | — |
| 瀬古 恵美 | 横浜リハビリテーション専門学校 担当グループ 教務チーム | 令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年) | — |
| 中村 啓文 | 横浜リハビリテーション専門学校 担当グループ 教務チーム | 令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年) | — |
| 田中 千恵 | 横浜リハビリテーション専門学校 担当グループ 教務チーム | 令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年) | — |
| 水島 眞由美 | 横浜リハビリテーション専門学校 担当グループ 教務チーム | 令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年) | — |
| 机 理恵 | 横浜リハビリテーション専門学校 担当グループ 教務チーム | 令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年) | — |

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年9月22日 16:00～17:00

第2回 令和6年3月15日 16:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会で得られた意見を授業アンケート実施時に各担当教員に伝達する。初年次教育において基礎学力の

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

臨床実習実施にあたり、厚生労働省の定める理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に基づき、臨床実習指導者講習を受講し登録している指導者がいる施設において行っている。年度ごとに施設の承諾書や、臨床実習指導講習証明、理学療法免許書の写しや履歴書の提出を義務付けており管理運営している。(2020年度生の臨床実習より、指定規則が改正され、臨床実習指導者の要件が厳格化された。)

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

臨床実習においては、厚生労働省の規定する書式に基づき実習施設や実習指導者との契約を書面にて締結し、実施している。臨床実習手引を作成し、各臨床実習科目の到達目標を明確にしている。実習前に学校で実習施設の指導者を集めた実習指導者会議を開催し、前年度実習報告、実習目的、到達目標、臨床実習指導報告書(学生評価)等について説明し、意見交換を行っている。また、実習期間中に担当教員が施設を訪問し状況確認および実習内容を調整している。学生の実習成績においては、臨床実習手引で定めた形式的評価表等を実習指導者に記載してもらい、教務部会議にて実習単位を承認している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 企業連携の方法 | 科目概要 | 連携企業等 |
|-------|---------------------------|--|---|
| 基礎実習 | 3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。) | 精神疾患の基本を学習し、症例を通じて具体的理解を図り、来るべき臨床実践に備える。時間があれば最近の精神医学のトピックスにも触れてみたい。 | 介護老人保健施設ウエルケア新吉田、介護老人保健施設さつきの里あつぎ、横浜なみきりハビリテーション病院通所リハビリテーション部門、介護老人保健施設ストア川崎、介護老人保健施設水之尾他19施設(総数:24施設) |
| 臨床実習Ⅰ | 3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。) | 小児を対象とする理学療法・作業療法に必要な小児科学の知識を習得する。また、家族を含めた自らの周囲の小児の疾病に対する理解を得る。 | 厚木佐藤病院、イムス横浜狩場脳神経外科病院、イムス横浜東戸塚総合リハビリテーション病院、AOI七沢リハビリテーション病院、江田記念病院他55施設(総数:61施設) |
| 臨床実習Ⅱ | 3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。) | 心理検査の意義と実施上の心構えの習得 | 厚木佐藤病院、イムス横浜狩場脳神経外科病院、イムス横浜東戸塚総合リハビリテーション病院、AOI七沢リハビリテーション病院、江田記念病院他55施設(総数:61施設) |
| 臨床実習Ⅲ | 3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。) | ・精神科領域における作業療法の対象とその背景を知る。 ・精神科領域における疾患の特性を理解できる。 | 医療法人鉄薫会亀田メディカルセンター、湘南藤沢徳洲会病院、横浜市立脳卒中・神経脊椎センター、みどり野リハビリテーション病院、神奈川リハビリテーション病院他57施設(総数:62施設) |
| 臨床実習Ⅳ | 3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。) | ・精神障害に対する理解を深める。 ・作業療法士の視点と知識を身につける。 | 医療法人鉄薫会亀田メディカルセンター、湘南藤沢徳洲会病院、横浜市立脳卒中・神経脊椎センター、みどり野リハビリテーション病院、神奈川リハビリテーション病院他57施設(総数:62施設) |

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

リハビリテーション分野において、領域の拡大や医療技術の進歩によって、臨床現場で作業療法士に求められる役割は日進月歩である。このような背景から、職務の遂行に必要な教員の能力、資質等の向上を図ることを目的に実地研修を計画的に実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

| | | | |
|--------------------|--|--------|-----------------------|
| 研修名: | 作業療法臨床 | 連携企業等: | 医療法人健友会 介護医療院湘南の丘 |
| 期間: | 2023年4月1日～2024年3月31日 | 対象: | 教員1名 |
| 内容: | 老年期作業療法臨床、「作業療法概論」の作業療法士の活躍領域の紹介に活用する。 | | |
| 研修名: | 作業療法臨床 | 連携企業等: | 栄福祉会 |
| 期間: | 2023年4月1日～2024年3月31日 | 対象: | 教員1名 |
| 内容: | 精神科作業療法臨床、「精神領域の治療学」の作業療法評価・治療計画として活用する。 | | |
| 研修名: | 作業療法臨床 | 連携企業等: | 一般財団法人 聖マリアンナ会 東横恵愛病院 |
| 期間: | 2023年4月1日～2024年3月31日 | 対象: | 教員1名 |
| 内容: | 精神科作業療法臨床、「精神領域の治療学」の作業療法評価・治療計画として活用する。 | | |
| ② 指導力の修得・向上のための研修等 | | | |
| 研修名: | 第57回日本作業療法学会 | 連携企業等: | (一社)日本作業療法士会 |
| 期間: | 2023年11月10日～11月12日 | 対象: | 教員2名 |
| 内容: | 作業療法の効果を最大化する知識・技術・環境を問う。 | | |
| 研修名: | MTDLP教育に携わる教員研修 | 連携企業等: | (一社)日本作業療法士会 |
| 期間: | 2023年9月10日 | 対象: | 教員1名 |
| 内容: | 教員のためのMTDLP研修会 | | |
| 研修名: | 国際福祉機器展 | 連携企業等: | 全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会 |
| 期間: | 2023年9月27日～29日 | 対象: | 教員3名 |
| 内容: | 最新の福祉機器 | | |

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

| | | | |
|------|--------------------------|--------|--------------------|
| 研修名: | 第58回日本作業療法学会 | 連携企業等: | (一社)日本作業療法士会 |
| 期間: | 2024年11月9日～2025年11月10日 | 対象: | 教員2名 |
| 内容 | #REF! | | |
| 研修名: | MTDLP教育に携わる教員研修 | 連携企業等: | (一社)日本作業療法士会 |
| 期間: | 2024年7月28日～11月12日 | 対象: | 教員1名 |
| 内容 | リハビリテーション関連職種教育のパラダイムシフト | | |
| 研修名: | 国際福祉機器展 | 連携企業等: | 全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会 |
| 期間: | 2024年10月27日～29 | 対象: | 教員3名 |
| 内容 | 最新の福祉機器 | | |

② 指導力の修得・向上のための研修等

| | | | |
|------|---------------------------------------|--------|-----------------|
| 研修名: | 全国リハビリテーション専門学校協会第36回教育研究大会・教員研修会 | 連携企業等: | 全国リハビリテーション学校協会 |
| 期間: | 2024年8月29日～31 | 対象: | 教員2名 |
| 内容 | ナラティブと最先端医療教育の融合 | | |
| 研修名: | 教員と実習指導者のためのMTDLP教育法 | 連携企業等: | (一社)日本作業療法士会 |
| 期間: | 45683 | 対象: | 教員1名 |
| 内容 | 養成校でMTDLPを学生に教授する教員が理解しておくべき基本的知識と考え方 | | |
| 研修名: | 第29回 日本作業療法教育学会 | 連携企業等: | (一社)日本作業療法士会 |
| 期間: | 2024年11月30日～12月1日 | 対象: | 教員1名 |
| 内容 | リハビリテーション関連職種教育のパラダイムシフト | | |

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校学則の第4条の自己点検・評価の規定に基づき、横浜リハビリテーション専門学校(以下「本校」という)の学校関係者評価を実施する機関として学校関係者評価委員会を設置し、これに必要な事項を定める。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|----------------|----------------|
| (1) 教育理念・目標 | (1) 教育理念・目標 |
| (2) 学校運営 | (2) 学校運営 |
| (3) 教育活動 | (3) 教育活動 |
| (4) 学修成果 | (4) 学修成果 |
| (5) 学生支援 | (5) 学生支援 |
| (6) 教育環境 | (6) 教育環境 |
| (7) 学生の受入れ募集 | (7) 学生の受入れ募集 |
| (8) 財務 | |
| (9) 法令等の遵守 | (9) 法令等の遵守 |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | (10) 社会貢献・地域貢献 |
| (11) 国際交流 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

Rリーグによるポイント制をポジティブに捉え、更に発展させることについてご意見を頂いた。また、体力測定会やつなぐカフェに関しては地域の方々から高い評価を頂いているので、今後は防災の観点からの地域との連動の要請があった。授業アンケートの外部への情報公開、加率的に導入されるであろうチャットGPTの活用に関して意見交換を行った。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|--------------------|------------------------|-------|
| 松田 寿子 | 品濃町内会 | 令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年) | 地域 |
| 藤井 真人 | 医療法人 横浜博萌会西横浜国際病院 | 令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年) | 企業等委員 |
| 戸羽 香央里 | 東戸塚記念病院 リハビリテーション科 | 令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年) | 企業等委員 |
| 重田 直哉 | 亀田森の里病院 | 令和5年8月1日～令和7年7月31日(2年) | 卒業生 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <http://ycr.iwasaki.ac.jp>

公表時期: 2024年12月1日(金)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校学則の第4条の自己点検・評価の規定に基づき、横浜リハビリテーション専門学校(以下「本校」という)の学校関係者評価を実施する機関として学校関係者評価委員会を設置し、これに必要な事項を定める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|-------------------|---------------------------------------|
| (1)学校の概要、目標及び計画 | (1)教育理念・目標 |
| (2)各学科等の教育 | (2)学校運営 |
| (3)教職員 | (4)学修成果 ① 資格 ② 国家試験・卒業試験 ③ 臨床実習 ④ 留年 |
| (4)キャリア教育・実践的職業教育 | (3)教育活動 ① シラバス・カリキュラム ② 教育力向上 ③ 臨床実習 |
| (5)様々な教育活動・教育環境 | (5)学生支援 ① 社会性 ② 行事 ③ 個別指導 ④ 健康管理・防犯 ⑤ |
| (6)学生の生活支援 | (6)教育環境 ① 教室 ② 図書 ③ 設備・備品 |
| (7)学生納付金・修学支援 | (7)学生の受入れ募集 |
| (8)学校の財務 | |
| (9)学校評価 | (9)法令等の遵守 |
| (10)国際連携の状況 | (10)社会貢献・地域貢献 |
| (11)その他 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <http://ycr.iwasaki.ac.jp>

公表時期: 随時

授業科目等の概要

| (医療専門課程 作業療法学科) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|----|------|------|------------|---|---------|------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| | 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| | 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| 1 | ○ | | | IT活用法 | パソコンの基本的な操作ができるようになる。 | 1前 | 30 | 1 | △ | ○ | | ○ | | | ○ | |
| 2 | ○ | | | 研究法Ⅰ | 作業療法における研究の位置づけを学ぶことで、科学的に対象者を理解する姿勢を身につけることを目的とする。 | 2後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 3 | ○ | | | 研究法Ⅱ | 作業療法における研究の位置づけを学ぶことで、科学的に対象者を理解する姿勢を身につけることを目的とする。 | 3前 | 30 | 1 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| 4 | ○ | | | 心理学 | 心理学の基礎を学ぶことで、応用的に心理学を用いる力を養うことを目的とする。 | 1前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 5 | ○ | | | 倫理学 | 人間としての在り方生き方について考察するとともに現代社会における倫理的な課題について思索を深める。併せて、医療専門職としての職業倫理も考える。 | 1後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 6 | ○ | | | 教育学 | 教育を医療と比較しながら、コミュニケーションの視点から考える。 | 1前 | 30 | 2 | ○ | △ | | ○ | | | ○ | |
| 7 | ○ | | | トレーニング理論 | 身体の運動時の生理的機能の変化を理解し、運動処方とトレーニングにつなげる。 | 1前 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 8 | ○ | | | トレーニング演習 | トレーニング指導（プログラム作成・指導・評価）の体験を通し、運動処方・トレーニングに関する理解を深める。 | 1後 | 30 | 1 | | ○ | △ | ○ | | | ○ | |
| 9 | ○ | | | 外国語リテラシー | 医療の現場において、多国籍の方の意思伝達の際に特に誤解の起こりやすい場面を想定し、トラブルや医療ミスを回避するためのコミュニケーションスキルの基礎を学ぶ。 | 1後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 10 | ○ | | | カウンセリング心理学 | コミュニケーションを用い、対話や会話を通して対象者が困っている人間関係、家族関係、心の問題、職場適応などの問題を傾聴できるスキルを学ぶ。 | 1前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 11 | ○ | | | 社会心理学 | 社会心理学の中の「関係」や「影響」を中心に学習を行う。 | 3後 | 30 | 2 | ○ | △ | | ○ | | | ○ | |
| 12 | ○ | | | 解剖学Ⅰ | 医療従事者に必要な身体構造の知識を身につけることを目的とする。 | 1前 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|--|--------|--|----|----|---|---|---|--|---|--|--|---|
| 13 | ○ | | 解剖学Ⅱ | 各種実習を行うことで、身体構造の理解を深めることを目的とする。 | 1後 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 14 | ○ | | 生理学Ⅰ | 作業療法およびその臨床に必要な不可欠な生体機能に関する知識を習得する。 | 1前 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 15 | ○ | | 生理学Ⅱ | 作業療法およびその臨床に必要な不可欠な生体機能に関する知識を習得する。 | 1後 | 60 | 2 | ○ | △ | | ○ | | | ○ |
| 16 | ○ | | 基礎運動学Ⅰ | 解剖学、生理学の知識を基本として、運動学の基礎知識を学ぶ。 | 1前 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 17 | ○ | | 基礎運動学Ⅱ | 人体の運動を理解するために運動学の基礎知識を学ぶ。 | 1後 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 18 | ○ | | 応用運動学 | 臨床的な動作・活動分析の視点を養う | 2後 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 21 | ○ | | 総合学習Ⅰ | 作業療法士として、医療人として働くための医学的基礎知識（解剖・生理・運動学）を確認する。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 22 | ○ | | 総合学習Ⅱ | 作業療法士として、医療人として働くための医学的基礎知識（解剖・生理・運動学）を確認する。 | 2後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 23 | ○ | | 老年医学 | 高齢者の特色や特徴的な疾患・病態、加齢と老化および高齢者の疾病の予防、臨床、ケアなどを学ぶ。 | 3前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 24 | ○ | | 臨床心理学 | 臨床心理学の基礎的知識を得るとともに、よりよい実践を行うための心理学的技法を学ぶ。 | 3後 | 30 | 2 | ○ | △ | | ○ | | | ○ |
| 25 | ○ | | 内科学 | 患者さんの訴えに耳を傾け、医師や看護師など医療チームのスタッフと連携できるOT・PTになるために、代表的な内科疾患の病態、症状、検査、治療についての知識を習得する。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 26 | ○ | | 整形外科 | 理学療法士、作業療法士として必要な整形外科の知識を習得する。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 27 | ○ | | 神経内科学 | すでに学んだ解剖・生理・病理学から神経内科学を理解する。神経内科学を勉強して正しい理学療法や作業療法を理解出来るようにする。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ |
| 28 | ○ | | 精神医学 | 精神疾患の基本を学習し、症例を通じて具体的理解を図り、来るべき臨床実践に備える。時間があれば最近の精神医学のトピックスにも触れてみたい。 | 2後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|--|---------------|--|----|----|---|---|---|---|---|---|--|---|---|--|--|--|--|---|---|---|---|
| 29 | ○ | | 小児科学 | 小児を対象とする理学療法・作業療法に必要な小児科学の知識を習得する。また、家族を含めた自らの周囲の小児の疾病に対する理解を得る。 | 2前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | | | | | | ○ | | | |
| 30 | ○ | | 心理検査法 | 心理検査の意義と実施上の心構えの習得 | 1前 | 30 | 2 | ○ | △ | | ○ | | | | | | | | | | ○ | | |
| 31 | ○ | | 臨床リハビリテーション医学 | リハビリテーション医療の現場に必要なエビデンス、画像情報、薬理、学習理論、栄養管理、救命救急・感染予防などのリスク管理について理解する。 | 3前 | 30 | 1 | ○ | | △ | ○ | | | ○ | | | | | | | ○ | | |
| 32 | ○ | | リハビリテーション概論 | リハビリテーションの理念の変遷を理解すると同時に、包括的なリハビリテーションの役割について理解する。 | 1後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | | | | | | | ○ | | |
| 33 | ○ | | 理学療法概論 | チーム医療として協業する理学療法士について理解する。 | 2前 | 30 | 1 | ○ | | △ | ○ | | | ○ | | | | | | | ○ | | |
| 34 | ○ | | 言語療法概論 | 言語聴覚療法全般について学び、言語聴覚士の役割を知る。 | 3前 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | | ○ | |
| 35 | ○ | | 地域福祉論 | 社会福祉からの視点でみる。社会福祉制度全般の概要を学習する。 | 1後 | 30 | 2 | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | | ○ | |
| 36 | ○ | | 作業療法概論 | ・保健・医療・福祉領域における作業療法の具体的なイメージができる。 ・作業療法士になるための心構えと自覚を身につける。 | 1前 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | | ○ | | | | | | | | ○ | |
| 37 | ○ | | 作業療法管理学 | 人権擁護や作業療法倫理、職場管理について学ぶ。 | 1後 | 30 | 2 | ○ | △ | | ○ | | | | | | | | | | | ○ | |
| 38 | ○ | | 作業療法実習 | 医療従事者に必要な基本的資質や技術を身につける。 | 1前 | 30 | 1 | ○ | | △ | ○ | | | ○ | | | | | | | | ○ | |
| 39 | ○ | | 基礎作業学Ⅰ | 作業療法士が行う作業活動の範囲・種類を学び、手工芸を中心とした一部の作業活動を紹介・実施する。（革細工・木工・金工・陶芸・織物・マクラメを除く） | 1後 | 30 | 1 | △ | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | | ○ | |
| 40 | ○ | | eアクティビティ | 作業療法で用いる作業活動（ゲームやICTの活用など）の基本的技法を習得する。 | 1後 | 60 | 2 | △ | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | | ○ | |
| 41 | ○ | | 基礎作業学Ⅱ | 作業活動の基本的技法を習得し、治療に活かせると共に、作業分析の考え方を理解することができることを目的とする。 | 2前 | 60 | 2 | △ | | | ○ | ○ | | | ○ | | | | | | | ○ | |
| 42 | ○ | | 身体障害領域の評価学概論 | ・身体障害領域における作業療法評価の概要について理解する。 ・本講義で行なう各種検査・測定技法について学ぶ。 | 1後 | 30 | 1 | ○ | | △ | ○ | | | | ○ | | | | | | | | ○ |
| 43 | ○ | | 精神障害領域の評価学概論 | ・精神科領域における作業療法の対象とその背景を知る。 ・精神科領域における疾患の特性を理解できる。 | 1後 | 30 | 1 | ○ | | △ | ○ | | | | ○ | | | | | | | | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|--|------------|---|----|----|---|---|---|---|---|--|--|--|--|--|--|---|--|
| 44 | ○ | | 身体領域の評価学 | 身体障害領域における作業療法評価を理解するとともに、各種検査・測定技法について学ぶ。 | 2前 | 60 | 2 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 45 | ○ | | 身体領域の評価学演習 | 身体障害領域における作業療法評価を理解するとともに、各種検査・測定技法について学ぶ。 | 2前 | 30 | 1 | △ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 46 | ○ | | 精神領域の評価学 | ・精神障害に対する理解を深める。 ・作業療法士の視点と知識を身につける。 | 2前 | 60 | 2 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 47 | ○ | | 発達領域の評価学 | 発達領域の作業療法評価を理解する。 | 2前 | 30 | 1 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 48 | ○ | | 身体領域の治療学Ⅰ | ・身体機能作業療法の目的が理解できる。 ・身体機能障害を理解し、作業療法技術を理解する。 ・文献を調べ、まとめることができる。 | 2後 | 60 | 2 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 49 | ○ | | 身体領域の治療学Ⅱ | 各症例の作業療法計画を立案し、その評価結果のデータをもとに、問題点の抽出、作業療法計画の立案をシュミレーションする。 | 3前 | 30 | 1 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 50 | ○ | | 身体領域の治療学Ⅲ | 身体障害者の各疾患別作業療法の評価・介入手段を学ぶ。 | 3前 | 60 | 2 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 51 | ○ | | 精神領域の治療学Ⅰ | ・精神疾患の障害特性を理解する。 ・精神科の理論を理解する。 | 2後 | 60 | 2 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 52 | ○ | | 精神領域の治療学Ⅱ | 精神科作業療法を理解することを目的とする。 | 3前 | 30 | 1 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 53 | ○ | | 精神領域の治療学Ⅲ | 精神領域の作業療法の治療方法を理解し、報告できることを目的とする。 | 3前 | 60 | 2 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 54 | ○ | | 発達領域の治療学Ⅰ | 発達領域での作業療法士の役割について理解する。 | 3前 | 30 | 1 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 55 | ○ | | 発達領域の治療学Ⅱ | 発達領域の治療の実際について、経験し、理解する。 | 3後 | 30 | 1 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 56 | ○ | | 老年期の治療学 | 老年期の心身的特長と作業療法評価および介入方法について学ぶ | 3後 | 30 | 1 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | | | |
| 57 | ○ | | 高次脳機能の治療学 | 高次脳機能障害に対する理解し、作業療法介入の原則を学ぶ。高次脳機能障害を有する対象者に対する評価と介入の方法や考え方について習得する。 | 3前 | 30 | 2 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | | ○ | |
| 58 | ○ | | 日常生活活動学Ⅰ | ・人の生活を理解し、障がいの特徴にあった作業療法技術を学ぶ。 ・日常生活動作を評価及び訓練する目的を理解する。 | 3前 | 30 | 1 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|--|---------------|--|----|----|---|---|---|---|---|---|--|--|--|--|--|
| 59 | ○ | | 日常生活活動学Ⅱ | ・人の生活を理解し、障がいの特徴にあった作業療法技術を学ぶ。 ・日常生活動作を評価及び訓練する目的を理解する。 | 3後 | 30 | 1 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | |
| 60 | ○ | | インクルーシブデザイン学 | 高齢者、障がい者だけでなく、多様な人間に使いやすい環境（住宅・福祉用具・義肢装具など）を学ぶ。 | 3後 | 60 | 2 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | |
| 61 | ○ | | 作業分析学 | 作業分析を通して作業療法の目的を理解する。 | 3後 | 30 | 1 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | |
| 62 | ○ | | 身体領域の症例検討 | 対象者に一連の作業療法アプローチができる | 3後 | 30 | 1 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | |
| 63 | ○ | | 精神領域の症例検討 | 臨床実習Ⅰ・Ⅱにおける症例報告書を修正し、4年次の臨床実習に活かすことができる。 | 3後 | 30 | 1 | ○ | △ | ○ | ○ | | | | | | |
| 64 | ○ | | 卒業研究 | 卒業研究報告と卒業試験を含み、4年間に学んだ知識の最終確認とする。 | 4通 | 30 | 2 | △ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| 65 | ○ | | 作業療法リテラシー | 作業療法士としての総合的な基礎知識を学ぶ。 | 4通 | 60 | 2 | ○ | | ○ | ○ | | | | | | |
| 66 | ○ | | 総合演習Ⅰ | 客観的臨床能力試験を実施することで、臨床実習にて必要な臨床技能を習得する。 | 3前 | 30 | 1 | ○ | | ○ | ○ | | | | | | |
| 67 | ○ | | 総合演習Ⅱ | 客観的臨床能力試験を実施することで、臨床にて必要な総合的臨床技能を習得する。 | 3後 | 30 | 1 | ○ | | ○ | ○ | | | | | | |
| 68 | ○ | | レクリエーション活動学 | ・集団や場の治療的意義を理解できる。 ・集団療法技法をまなぶことができる。 | 1後 | 30 | 1 | ○ | | ○ | ○ | | | | | | |
| 69 | ○ | | 地域リハビリテーション学 | 自立支援や就労支援、地域包括ケアシステム、多職種連携の理解を学ぶ。 | 3後 | 30 | 2 | ○ | | ○ | ○ | | | | | | |
| 70 | ○ | | 生活行為向上マネジメント学 | 生活に焦点を置いた作業療法の技を学ぶ | 2後 | 60 | 2 | ○ | | ○ | ○ | | | | | | |
| 71 | ○ | | 地域作業療法学 | 地域リハビリテーションの概要を理解する。 | 3前 | 30 | 1 | ○ | | ○ | ○ | | | | | | |
| 72 | ○ | | 生活支援技法 | ボディメカニクスを活用した介助技法を学ぶ。 | 2後 | 30 | 1 | △ | ○ | | ○ | ○ | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|--|-------------------|--|----|-----|----|---------------|---|--|---|---|---|---|---|
| 73 | ○ | | 地域見学実習 | ・対象者との関りによって、実感したこと、考えたことを今後の糧にする。 ・様々な方とコミュニケーションがとれる。 ・社会人としての常識を持つ。 | 1通 | 45 | 1 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 74 | ○ | | 連携コミュニケーション演習 | 対象者に適切なコミュニケーションをとることができる。 | 2前 | 30 | 1 | △ | △ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 75 | ○ | | 基礎実習 | 医療人として患者様に関わる最低限度の知識・技術を習得する。 | 2後 | 90 | 1 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 76 | ○ | | 臨床実習Ⅰ (評価実習) | ・専門職としてのふさわしい態度をとることができる。 ・対象者から必要な情報を適切に収集することができる。 | 3通 | 135 | 3 | | | | ○ | △ | ○ | ○ | ○ |
| 77 | ○ | | 臨床実習Ⅱ (評価実習) | ・専門職としてのふさわしい態度をとることができる。 ・対象者から必要な情報を適切に収集することができる。 | 3通 | 135 | 3 | | | | ○ | △ | ○ | ○ | ○ |
| 78 | ○ | | 臨床実習Ⅲ (総合臨床実習) | 作業療法における評価、治療の一連の流れを習得し、また、職業人としての基本的態度を身につけることができる。 | 4通 | 360 | 8 | | | | ○ | △ | ○ | ○ | ○ |
| 79 | ○ | | 臨床実習Ⅳ (総合臨床実習) | 作業療法における評価、治療の一連の流れを習得し、また、職業人としての基本的態度を身につけることができる。 | 4通 | 360 | 8 | | | | ○ | △ | ○ | ○ | ○ |
| 合計 | | | | | | 79 | 科目 | 136 単位 (単位時間) | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|--|--|----------|-----|
| 卒業要件： 各学年で、地祇に示す単位を修得しなければならない。1年次；42単位、2年次35単位、3年次39単位、4年次20単位の計136単位。 | | 1学年の学期区分 | 2期 |
| 履修方法： 修得すべき学年において1科目でも必修科目に不合格があれば、原則的に留年の扱いとなる。但し、これについては年度末の進級判定会議にて総合的に判断された上で決定する。4年次については、必修科目に不合格があれば、卒業判定会議を経て決定される。卒業延期の対象は、必修科目の単位を修得しているものの、作業療法リテラシーに不合格となった者、または、卒業研究課題が未提出の者である。期間は1年間とし、さらに1年間卒業を延期することができる。 | | 1学期の授業期間 | 15週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。